

特別保護区の生き物たち



特別保護区には地域ではあまり見かけなくなった昆虫やカエル、小鳥などを見ることができます。

右はとても珍しい蛾でオナガミズアオ。左はアズマヒキガエル。下左はアメリカザリガニ。下は入口の道端で発見したコゲラです。



アメリカザリガニのお母さん。おなかに生まれたばかりの赤ちゃんがいます。



セミの抜け殻調査中間報告

今年の抜け殻調査ではニイニイゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、ヒグラシが見つかっています。来月号に今年の調査結果を発表することにします。



ヒグラシの抜け殻 (→)

林の下を見てみよう



春のキノコ

特別保護区の地面には落ち葉や枯れ枝がたくさん落ちています。そこには四季を通していろいろなキノコが育っています。

キノコは落ち葉や枯れ枝に付いたクモの巣状の菌が育ったものです。そして落ち葉や枯れ枝など腐らせ、やがて土に帰すという、森の掃除屋さんなのです。

上はアミガサタケ。下はツチグリ、右はヒトヨタケのなかま。どちらも林の下で見つかっています。

